

特集

# 国指定天然記念物 安中原市のスギ並木

昭和28年指定(当時321本残っていた)

樹齢：最高320年 高さ：最高30.6m 根元周：最高7.0m

指定当時は300本以上あった並木も徐々に数が少なくなり、平成24年3月調査、現在は14本を残すのみとなってしまった。

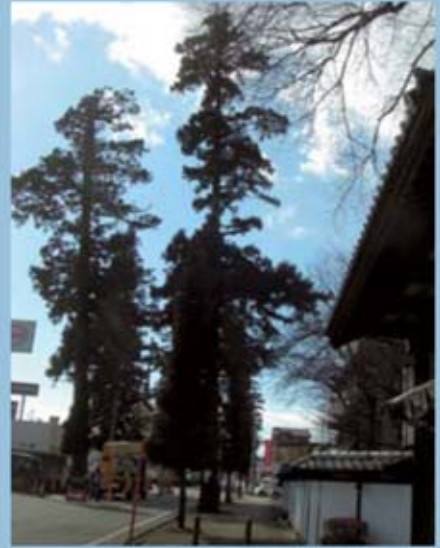
中山道の改修や市街地化により、根元を排水溝やアスファルト舗装にされ水分の不足及び排ガスの影響等が考えられる。

実際現地に立ってみると、凄まじい大木が民家や商店と隣接しており、強風時における住民の不安は容易に想像することができる。これをどう守るか、そして付近の安全を確保するかは引き続き大きな課題となる。10年以上前から、道路管理者からの相談を受け樹木医会として調査・研究・提案を実施し方向は示すものの、実現となると道路構造の限界、費用、住民の合意、そして国指定の法的壁等が発生し難問山積となる。

根系の改善には、構造上おのずと限界があり、今回可能な方法として樹勢回復のための葉面からの液肥散布を行うこととしたが、これもまた近隣住民の営業問題や安全性の合意にはかなりの理解と協力が不可欠となる。

今後は強風対策として、枝抜き作業や樹高の切り下げ等安全確保の提言も視野に入りたいと考えるが、景観上の問題や国指定の制約等新たな問題も起こり得る。願わくば、付近の住民に不慮の事故が発生する前に有効な対応策が決定され、実現されることを切望するところである。

調査結果(図3)から倒伏、幹折れの危険が大きい50%を超える樹木が、S120・S121・S127・S147・S155・N72・N123の7本である。これは全体



の50%で非常に高い数値に達している。この高い数値は、今後保護や維持を行う上で倒伏や幹折れの危険を重ね合わせて考慮する必要がある。倒伏や幹折れは強風により発生するものが殆どであるところから、これらの樹木は頂端の切り下げなどを行い風による抵抗を引き下げる必要がある。

(昭和造園土木㈱・石橋 照夫)

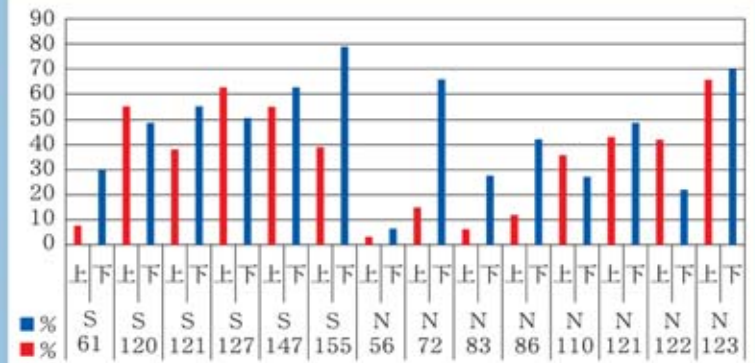


図3 腐朽・空洞率データ

## 平成24年表彰

■ 5月1日(火)  
花と緑のコンテスト

群馬県知事賞

株式会社高橋造園土木

代表取締役 高橋 副二

■ 5月1日(火)  
花と緑のコンテスト  
(財)日本造園修景協会  
群馬県支部長賞

昭和造園土木株式会社

代表取締役 石橋 照夫

■ 10月18日(木)

群馬県総合表彰

赤城グリーン株式会社

代表取締役 荻原 武一

■ 10月18日(木)

国土交通省大臣顕彰  
(建設マスター)

株式会社 櫻井 幹男

代表取締役 櫻井 幹男

■ 11月21日(水)

群馬県優秀技能者表彰

有限会社富士造園

代表取締役 北爪 元